

2022年度 若者×ツナグバ採択団体団体一覧

No.	団体名	拠点	活動名	活動概要
1	韃衆（ふいごしゅう）	山県郡安芸太田町	空き家を多世代交流の拠点に！ 棚田の魅力を発信！	安芸太田町筒賀地区の古民家「大島ハウス」(現在は空き家)を拠点に、多世代交流の場を作ります。「大島ハウス」にはかつて使われていた農機具や五右衛門風呂など、「先人の知恵」が残っています。本活動では、所有者の想いや時代背景を学び、さらに楽しみながら知識を応用できる人材を育成します。 また、同町の井仁地区には大きな棚田があります。「日本棚田百選」に選ばれるほど由緒ある棚田ですが、後継者不足や管理者の高齢化といった課題を抱えています。韃衆が地域の人との交流を楽しみながら魅力発信を行うことで地域の課題解決にも寄与したいと考えています。 以上の活動拠点2つを以て、自らと仲間の心の火種に風を送る韃人間の育成を目指します。
2	11=Jack(ジャック)	周南市	山口県の福祉・介護を盛り上げたい！	活動内容は主に・福祉イベントなどでのパフォーマンス・交流会・研修会の開催・山口県内のボランティア活動・施設へのボランティア活動・福祉、介護分野の研修会・講演会・学習会への参加・古民家改修(拠点づくり)・YOUTUBEを使った動画配信 など様々な活動をしております
3	海岸清掃プロジェクト	東広島市	メイド・オブ・ふるさと食育プロジェクト	広島県では牡蠣の養殖が盛んに行われており、海岸には牡蠣養殖パイプが大量に漂着しているという現状がある。牡蠣パイプを含め、現在海洋プラスチックが問題となっているものの、その海洋ゴミの発生源である私たちは、自らの生活を海洋ゴミと結びつけて考え行動することは難しい。そこで私たちは海が身近でない多くの人にも海とのつながりを感じ、海について知ってもらうことで、海ゴミを少しでも意識した生活を送ってもらいたいと思っている。今回は、野菜作りにアマモ肥料を使うことで海を身近に感じ、大学生が企画する「広島県の海を知るワークショップ」で海を知る足がかりとする。 さらに、園児たちが自ら広島お宝野菜を育て、食べることを通して、広島県の伝統野菜や食文化について理解を深め、郷土愛を育むことも期待している。
4	グローバル・アバンセ	宇部市	「おとぎ話」で国際交流	・少子高齢化が進むものの在留外国人が増加する地域で、コミュニティスクールとの連携で国際交流を発展させ、「多文化共生社会」の構築に貢献する、2期目のプロジェクトです。 ・貴財団にご支援頂き、1期目はコロナ禍でも対応できるオンライン・システムを整備し、オフラインとの融合活動の基盤を整え、国際交流を推進しました。 ・2期目は「国際交流＝英語」の概念を払拭し、「日本語を交流言語」として、いつもは生徒役の小学生を先生役に、日本の「おとぎ話」を在留外国人に紹介する新プログラムを開発します。 ・連携先は1期目で関係の深まった宇部市吉部小学校、府中市栗生小学校と在留外国人の皆様です。
5	アミーゴやまぐち	山口市	高校生、大学生たちの居場所づくり	高校生、大学生を対象に、月1、2回を目安に集まって食事をする機会など人のつながりの場を提供する。OECDの調べによると、現在の日本の子どもの3人に1人は孤独を感じているというデータが出ている。さらにこの昨今のコロナ禍により、大学ではオンライン授業が主流となったり人とのつながりを持つ機会が減ってしまっている。そうして孤立化の深刻化を防ぐためにも、食事をつながりを持てるようにしていく。 またこうして参加者に体験の機会を提供することで、参加者の経験の幅が広がり、それが将来の選択肢を増やすことにつながることを期待する。